

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に真摯に取り組む生徒が多いが、漢字や文法などの基礎・基本的な内容が定着していない生徒が少数いる。 家庭学習などでの反復学習や課題の見直しなどの習慣付けが必要である。 ・「学力向上を図るための調査」では、国語の授業の内容について「どちらかといえば分からない・ほとんど分からない」と回答した生徒が9.7%いた。また、「国語の学習がどのくらい得意ですか」という問いに、「どちらかといえば得意ではない・得意ではない」と回答した生徒が41.1%いた。 ・読書の習慣が身に付いている生徒とそうでない生徒がおり、読解力に差がある。 ・相手の意見を聞き、根拠を挙げて自分の意見を述べるなどの言語活動において「積極的に発言する」「相手の考えを聞き、自らの考えを深める」場面に課題があるため、積極的に授業に取り入れ、言語活動を更に充実させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習ノートを活用し、定期的に小テストを実施することで、自身の理解度を確認するとともに、漢字学習の習慣を身に付けさせる。また、教科書の補助学習教材やワークシートなどを課題として活用することで、家庭学習の定着を目指す。 ・月毎のテーマによる図書一覧を廊下に配架したり、中学生におすすめの図書を紹介したりすることで、主体的に読書に取り組むように指導していく。また、朝読書の短い時間では集中して取り組むことが出来ている生徒が過半数だと見受けられるので、短時間でも読書に触れる時間を設けるように働きかける。 ・1学年のブッククラブ、2学年のビブリオバトル、3学年のブックトークを通して、読書活動の拡充を図る。 ・1学年のスピーチ、2学年のパネルディスカッション、3学年のブックトークおよびワールドカフェの指導を軸に、読書及び根拠をあげて自分の意見を述べる言語活動を授業へ取り入れる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果をみると、基礎基本の定着が不足している生徒が多い。（第1学年） ・講義形式に偏りがちで、グループワークなどの活動や発表の機会が少ない。（とくに第3学年） ・定期考査の平均点がA組とB組で10点程差がある。（第2学年） ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、授業内容が「どちらかといえばわからない」「ほとんどわからない」と回答した生徒が、全学年を通して14.5%と高い数値を示した。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、「どちらかといえば得意でない」「得意でない」と回答した生徒が合わせて46.7%と高い数値を示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るために、単元ごとに小テストを実施し、生徒の理解度を常に把握し、結果が思わしくない生徒に対しては、個に応じた支援を増やしていく。 ・講義形式の授業にならないよう、調べ学習や話し合い活動を増やすなど、自主的に取り組める機会を増やす。 ・平均点の低いクラスではより丁寧な説明を心掛け、一方で授業内容に物足りなさを感じている生徒に対しては、グループワーク等の時間においてより発展的な内容に踏み込んだ解答もできるように発問を設定する。 ・文献資料、地図、写真などの資料を多く取り入れ、既習知識と結び付けながら考えさせる機会を増やすなど、思考・判断・表現力の向上に努める。 ・社会に対して苦手意識をもっている生徒が多いため、多くの生徒が興味・関心をもてるように、時事問題を多く取り上げるなど、学習意欲を促す。

<p>数学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本が定着しきれていない。 ・全体的には授業に主体的に取り組んでいるが、受け身な生徒もいる。 ・問題を自分で解決しようとする生徒が増えてきた。 ・発展的な内容に関する取組を苦手としている生徒が多い。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、授業内容がほとんどわからないと回答した生徒が8.0%いた。特に2学年生徒では18.2%と都の平均17.8%に比べ、高い数値になっている。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、どちらかといえば得意でない・得意でないと回答した生徒が合わせて37.9%いた。 ・「全国学力・学習状況調査」において、都の平均正答率を概ね2~3%程度上回っている。ただし、観点別における「思考・判断・表現」及び問題形式における「記述式」の正答率は1.4%しか上回っていなかった。その中で、データの活用の記述式の正答率が都の平均より10%低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できていない部分を分析し、練習プリントを与え、繰り返し演習を行う。 ・受け身な生徒、自力だけでは演習に取り組めない生徒については、授業の中で学力向上支援講師と連携し、個別に指導する。 ・個々の理解力や定着具合に応じた発問を設定し、主体的に考え、積極的に発言できる姿勢を身に付けさせる。 ・文章問題などの発展的な問題に関しては、立式を苦手としている傾向がある。問題文を読み取る力を向上させるために、同じパターンの問題を繰り返し解かせていく指導が必要である。特に、証明やデータの読み取りなどの記述式の問題については、数学的な表現を用いて説明できるよう繰り返し取り組ませていく必要がある。 ・基本的な計算の部分で同じような間違いを繰り返す傾向があるので、同じ系統の問題を繰り返し解かせていく時間をとる。また、理解が不足している内容の分析を行い、プリント等で演習を行う。 ・できたことに対して評価し、達成感や自己肯定感を高める声掛けを行うことで、苦手意識をなくしていく。 ・的確なコース分けを行う。学力向上支援講師を活用し、生徒が質問しやすい状況を作る。
<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象を正しく解釈していない生徒が一定数存在する。 ・基礎的な概念や原理法則について、不正確な理解をしている生徒が少なくない。 ・理科の学習内容を日常の事象に関連付け、科学的に思考しながら理解する力が十分に身に付いていない。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、授業内容がわかるという生徒の割合が、学年が上がるにつれて減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の学習内容を系統的に学習できるよう、エネルギー・粒子・生命・地球の各分野の関連性を生徒が意識できる学習指導を行う。 ・実験・観察から得られる結果の分析を通じ、基礎的な概念や原理法則を正しく理解する時間を設定していく。 ・日常生活に関連がある身近な学習材を取り入れ、自らの生活体験を通じて日常の事象を科学的に思考する機会をさらに増やせるよう、指導の工夫を図る。 ・授業・実験・観察を通じて習得した知識を自らの生活体験に結び付け、日常生活と科学の関連を意識しながら学習できる環境を整えていく。
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね授業には意欲的に取り組んでいる。さらに主体的に活動を行うために、基礎的・基本的内容や表現の技術を定着させる。 ・音楽用語、読譜力などについては、繰り返し行うことによってさらなる定着を図る。 ・与えられた課題だけにとどまらず、主体的により深く曲を分析する姿勢を身に付けられるように自らも考え、学習していく力を付けさせる。 ・器楽について、基本的奏法を身に付けさせ、発展へとつなげる。 ・個に応じた指導ができるように、生徒理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の基礎として、歌唱では声の出し方、器楽では構え方から指導し発展に繋げていく。また、楽典についても、プリントなどを作成・利用しながら繰り返し学習を重ね、基礎力を定着させる。 ・意欲をもって取り組んでいけるように、教科書などの教材と合わせて、様々なジャンルの曲を取り入れ、授業に興味・関心をもてるようにする。 ・器楽においては、一人一人の技術や進み具合を把握して、個々に合った進度で、グループ活動、ペアワークを取り入れながら課題を進めていく。興味関心をもたせ、楽しくできるようにする。 ・パート練習を中心に、声の出し方などの個別指導をしながら、生徒の実態を把握し、個々の理解に努める。

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮した基礎的な用具の使い方を身に付けさせることができた。 ・ポスターカラーの特性を理解し、絵の具道具を適切に使えているが、まだ自己流になりやすい面もある。 ・1年生の50%以上の生徒が、授業がよくわかり、充実した時間が過ごせていると答えている。 ・透視図法の基本とポスターカラーの特性を理解することができた。発想したことを順序立てて紙面に描いていくのはまだ苦手である。 ・3年生の50%以上の生徒が積極的に質問しており、意欲がある。 ・デッサンの基本を理解することができたが、自分のイメージしたことを表現できるようになるために、引き続き実制作を通して学ぶ必要がある。 ・3年生の50%以上の生徒が学んだことを自分の作品に取り入れて表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで、ゆっくりと丁寧に指導していく。 ・複数の資料を用意するとともに、適切なタイミングで生徒に提示し、作品に生かせるようにしていく。 ・色や形の美しさを発見し、配色や構成の効果を考えながら平面や立体で表すことができるよう指導していく。 ・自分らしいもの、人とは違うものを作ることを意識させ、自分の感じたことや考えたことを意図的・計画的に表現させる。 ・教科書や生徒作品、名画、映像など、複数の作品を鑑賞し、感性・表現の多様さを学ばせる。また、作品に自分の感性を反映させられるように指導していく。 ・制作に興味をもてるように、モチーフやテーマの設定を題材によって変える。 ・美術室の教材を充実させ、各制作で有効活用できるようにすることで、発想の幅が広がるようにしていく。
保健体育	<p>【体育分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育に興味や関心をもつ生徒は多いが、「走る」「投げる」「とる」「跳ぶ」など基本的な運動能力が不足している。 ・筋持久力や全身持久力の不足とともに、物事に継続して粘り強く取り組む姿勢が見られにくくなっている。 <p>・水泳や器械運動などの専門の技術を必要とする個人種目に対する苦手意識が強い。</p> <p>【保健分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の習得が学習の中心となってしまうため、身に付けた知識を活用するための思考・判断・表現に関する力が不十分である。 	<p>【体育分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動能力（持久力・瞬発力・ジャンプ力・スピード）を養うために腹筋、背筋、腕立て、スクワットを継続的に行う。 ・筋持久力や全身持久力を養うために、バービーやランニングを継続的に行う。また、自己の課題を明確にし、次回の活動への意欲を高めるために、個人の振り返りやグループでの話し合いの場を設ける。 ・水泳や器械運動など生徒間で技術の差が大きく出る個人種目に関しては、技術レベルに応じて、グループ分けをして授業を進めていく。 <p>【保健分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や身近な健康問題など具体例を多く挙げ、生徒が興味・関心をもって授業に取り組むことができるようにする。 ・日常生活や身近な健康問題などについて、具体的に考えたり、話し合ったりする場を設ける。
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は主体的に学習に取り組む態度・姿勢をもっている。しかし、実体験不足から技能や思考・判断・表現に関する力が不十分だと思われる。 ・基礎的、基本的な内容を十分習得させ、さらに生活に生かす力を身に付けさせる題材や指導方法を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に生かせる力を身に付けさせるために、日常生活と関連付け、より実践的・体験的な製作と実習を多く取り入れた授業を考える。 ・製作を通して仕事の楽しさや完成の喜びを味わえるように工夫する。生活に必要な技能の定着を図る。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着が不十分な生徒がいる。 ・ペアワークやグループワークなどは全体的に真面目に取り組んでいるが、受け身な生徒もいる。 ・英語のプレゼンテーションなどは、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。 ・スピーキングが苦手な生徒がいる。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、英語の学習が得意ではないと回答した生徒が、14.5%いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業で目標や授業の流れを提示する。また、振り返りの時間を設ける。 ・ALTを活用して、生徒が英語を話したり聞いたりする機会を多く設ける。 ・教科書のLet's Talkを活用したり、ALTを活用したりして、英語の発話量を増やす。 ・間違いを恐れずに発言したり、質問したりしやすい雰囲気をつくる。できたことを褒めて、生徒の自己肯定感を高める。